

4. 生産性向上①

現場の生産性向上には3ムの排除が大切

3ム(ムダ・ムラ・ムリ) 排除

1. 「3ム」とは

ムダ・ムラ・ムリの頭文字の3つのムダをいう。3ムは、誰のためにもならない。後ろの文字をとってダラリという場合もある。そして、ダラリは良くない。3ムの中でも特にムダは改善すべきである。

ムダ	目的より手段が上回るとムダ。つまり、10人分の仕事を15人で仕事をすれば5人分のムダ(生産性が低い)
ムリ	目的より手段が下回るとムリ。つまり10人分の仕事を5人で仕事をこなすのは、5人分のムリ(仕事に遅れが出る)
ムラ	目的より手段が上回ったり、下回ったりするのは、ムラがあり、ムダ・ムリが発生し(問題が発生し)、望ましくない

注)トヨタでは、ムダ、特に7つのムダ(①つくりすぎのムダ ②在庫のムダ ③運搬のムダ ④不良のムダ ⑤加工そのもののムダ ⑥動作のムダ ⑦手待ちのムダ)の排除が非常に大切だとしている

2. 活動が徹底できない理由

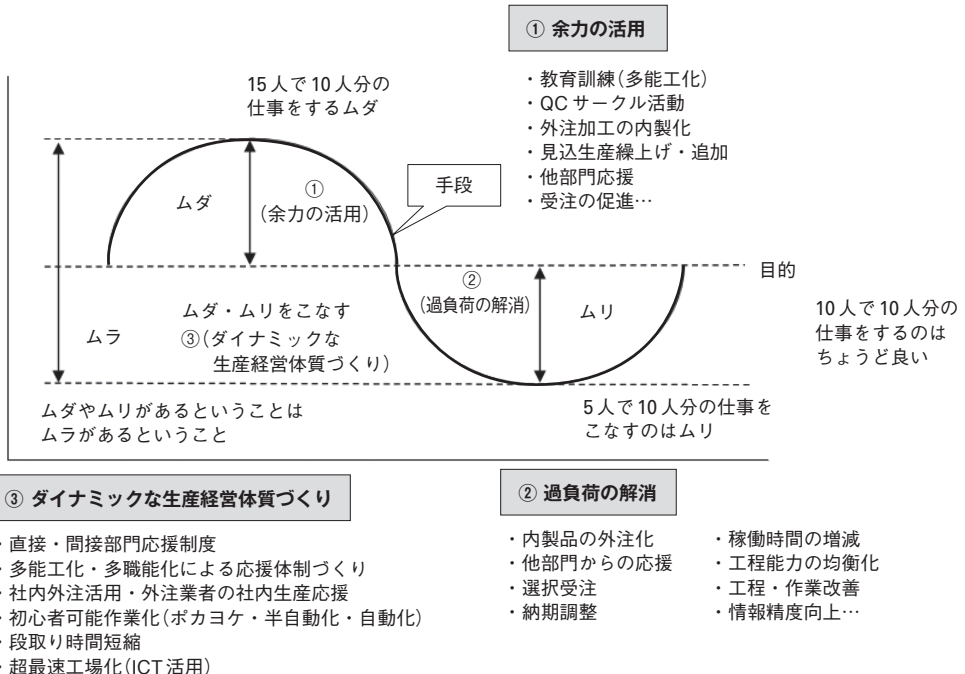
身近な問題解決より改革・大改善を目指そうとするあまり、小さな改善や小さな提案を怠るようになった。しかも、働く人々の教育やQCサークル活動・小集団活動に時間と費用をかけることを怠るようになった。お金のかかる難しい改革・大改善も大切であるが、お金のかからない簡単な維持・小改善を怠ってはならない(図1)。

3. 有効活用のポイント

企業の強さは、自律・自立性を持った意欲あふれる人材を採用・定着してもらい能力発揮のチャンスを与え続けるとともに、正しく評価・表彰(報いる)ことができるか否かで決まる。

命令されたことだけを行う作業者ではなく、自らマネジメントできる監督者・管理者を超え、自ら所属する職場経営に参画する経営感覚を持った人材をより多く育成、保持し続ける企業のみが成長する。そのためには、より一層のきめ細かな人事管理制度の確立が望まれる。

図1 ムダ・ムリとムラと改善策



(澤田 善次郎、笹橋 正則)